

東海岸サンライズベルト構想（仮称）  
（たたき台）

令和 年 月 日



## 目次

1	構想の意義及び位置づけ .....	1
	(1) 構想策定の意義 .....	1
	(2) 構想策定の背景 .....	1
	(3) 構想の位置づけ .....	1
2	捉えるべき社会動向 .....	2
	(1) SDG s .....	2
	(2) 新技術・イノベーション .....	2
	(3) ポストコロナ時代 .....	2
3	東海岸地域の発展可能性 .....	3
	(1) 発展可能性 .....	3
	(2) 東海岸の強み・生かすべき特性 .....	3
	(3) 東海岸に求められる方向性 .....	4
4	基本方向 .....	4
	(1) 基本的な考え方 .....	4
	(2) 目指す姿 .....	5
	(3) 構想全体のコンセプト .....	6
5	構想実現のための展開 .....	7
	(1) 構想実現のための重要な視点 .....	8
	(2) 施策展開の基本方向 .....	10
	① IT イノベーション拠点の形成 .....	10
	② 第二次産業の拠点形成 .....	11
	③ 港湾機能の強化 .....	12
	④ 大型 MICE 施設等を核とした東海岸地域の活性化 .....	12
	⑤ スポーツツーリズムの施策の展開 .....	13
	⑥ 歴史資源・自然資源と産業振興・観光振興が調和する土地利用の展開 .....	14
	⑦ 東海岸地域の円滑な交通ネットワークの形成 .....	15
	⑧ サンライズベルトの北部圏域への展開 .....	16
6	資料 .....	17
	(1) 東海岸サンライズベルト構想の構造図 .....	17

## 1 構想の意義及び位置づけ

### (1) 構想策定の意義

県土の均衡ある発展に向けては、東海岸にもう一つの南北に伸びる経済の背骨を形成し、強固な経済基盤を構築することが重要である。

沖縄の更なる発展を強固のものとするためには、東海岸地域の強みを生かし、西海岸地域と連携・役割分担を図りながら、広域的な観点から、東海岸の活性化・発展に向けた新機軸が必要となる。

本構想は、沖縄の更なる発展に資するため、はじめて、沖縄本島中南部圏域の東海岸地域に着目し、経済の背骨の構築に向け、東海岸地域の活性化・発展を推進するための方向性を示すものである。

### (2) 構想策定の背景

平成24年に策定した「沖縄21世紀ビジョン基本計画」では、各圏域において、東海岸地域の振興の方向性を記載し、同計画に基づき、沖縄振興の施策展開を推進している。

令和4年度からの新たな振興計画は、沖縄21世紀ビジョン基本計画等総点検の結果や新沖縄発展戦略を踏まえるとともに、社会経済情勢の変化に対応することが求められている。

令和2年3月に新沖縄発展戦略有識者チームがとりまとめた「新沖縄発展戦略：新たな振興計画に向けた提言」において、新たな振興計画に向けた重要事項のひとつとして、「東海岸サンライズベルトの発展戦略」が示されている。

令和2年度、「東海岸サンライズベルト構想検討委員会」を設置し、東海岸サンライズベルト構想をとりまとめた。

### (3) 構想の位置づけ

東海岸サンライズベルト構想は、県全体の発展を見据えた広域的な観点から、施策展開を推進するものである。

本構想の展開について、令和4年度以降の新たな振興計画に盛り込むとともに、県の関係する計画等へ、その内容を反映させていく必要がある。また、関係する市町村における、関連する計画等については、必ずしも本構想と整合することを拘束されるものではないが、東海岸地域の発展に向けた広域的観点から、反映させていく必要がある。

## 2 捉えるべき社会動向

### (1) SDGs

国際連合では、2030年までに達成すべき目標として、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むべく、持続可能な開発のための17の国際目標となるSDGsを示している。

沖縄県では「沖縄21世紀ビジョン」の将来像の実現に向け、SDGsを推進し、新たな時代に対応した持続可能な沖縄の発展を目指すこととしている。

また、2015年12月、UNFCCC第21回締約国会議（COP21）においてパリ協定が採択され、世界全体の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて2°Cより十分低く保つとともに、1.5°Cに抑える努力を追求することが示された。

こうした背景のもと、スマートシティやグリーンインフラストラクチャーといった環境共生都市など持続可能な社会への関心が高まっている。

### (2) 新技術・イノベーション

仮想空間と現実空間が融合するSociety5.0の社会の実現に向け、今後展開されるAIやIoT、ロボット、ビッグデータの活用等が急速に進展し、新たなサービスの展開及び多くの産業で高効率化や合理化が進み、大きな変化が起これと予想される。

IT技術の発展により、自動運転の技術の実証実験の展開やMaaSにみられるように人の移動にも変革が起き始めている。

### (3) ポストコロナ時代

新型コロナウイルス感染症の流行が世界規模で拡大している中、経済機能等の一極集中や都心部における過密状態が課題として改めて認識されている。また、テレワーク等のリモートサービスの拡大により、職住近接や地方への移住等、働き方や住み方に対する国民の意識が変化しており、地域の強みを最大限に活かしつつ、「Withコロナ時代」のニューノーマルに対応したまちづくりを総合的かつ戦略的に展開していくことが重要となっている。

### 3 東海岸地域の発展可能性

#### (1) 発展可能性

中南部都市圏域の東海岸地域においては、国際物流拠点の形成や今後の大型MICE 施設の立地など経済発展の大きな可能性を有しており、東海岸地域にもう一つ南北に伸びる経済の背骨を構築することにより、西海岸地域と連携を図りながら強固な経済の形成が期待できる。

東海岸地域には、沖縄IT 津梁パークや国際物流拠点産業集積地域うるま・沖縄地区を中心に、情報通信関連企業・先端企業の集積が進んでいる他、海中道路・大型商業施設等の観光資源や各種スポーツ施設等、世界遺産に登録されている斎場御嶽・中城城跡・勝連城跡等の歴史資源や、中城湾には、久高島や津堅島など個性豊かな島しょ地域も存在する。

さらには、中城湾港マリンタウン地区において整備予定の大型MICE 施設を中心とした賑わいのある豊かなまちづくりに向けた検討やスポーツ拠点の形成を目指す中城湾港泡瀬地区開発事業が進められている。

#### (2) 東海岸の強み・活かすべき特性

##### ①中城湾港を中心に形成された IT・産業振興拠点

- ・沖縄IT津梁パーク等の情報通信産業振興の拠点施設
- ・研究、開発、生産、処理機能がコンパクトに集積する中城湾港新港地区工業団地
- ・生産機能と流通機能を有する流通加工港湾（中城湾港）

##### ②多様化する MICE イベントと交流拠点の形成

- ・沖縄市多目的アリーナや整備予定のマリンタウンMICEエリア等、スポーツや音楽をはじめとする大型イベントを開催できる交流拠点の形成
- ・与那原マリーナや東部海浜開発等の交流拠点と連携する港湾機能

##### ③東海岸の魅力となる 3S（スポーツ・スピリチュアル・スロー）

- ・沖縄総合運動公園や西原マリンパーク等の施設と亜熱帯地域の温暖な気候を活かしたスポーツツーリズムの展開可能性
- ・世界遺産（斎場御嶽、中城城跡、勝連城跡）等の東海岸地域に点在するスピリチュアルなスポット
- ・ゆったりとした自然環境や生活空間の特性を活かし、滞在スタイルの変化に対応した個性豊かなツーリズムの展開可能性

### (3) 東海岸に求められる方向性

東海岸地域が有する特性やポテンシャルを生かし、産業・観光等において様々な地域資源を活用、発展させながら、東海岸地域一帯に本県の発展を更に促す西海岸地域と対をなす経済軸を形成する。

#### 東海岸地域の特性・ポテンシャル

土地利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沖縄本島のみどり骨格をなす緑地が連坦</li> <li>・ 工業地周辺や幹線道路沿道における施設用地の需要</li> </ul>
産業分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マリントウンエリアへの立地が予定されている大型MICE施設</li> <li>・ 国際物流ハブ機能を担う中城湾港</li> <li>・ 県内随一の第二次産業集積地域</li> <li>・ 中城湾港新港地区を中心とした情報通信関連企業・先端企業の集積</li> <li>・ アジア地域及び日本本土とつながる沖縄国際情報通信ネットワーク・クラウドネットワーク</li> </ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツ・コンベンションを展開している各種スポーツ施設の立地</li> <li>・ スポーツ、健康・医療、宿泊、海洋レジャー等を展開する開発計画</li> <li>・ マリーナや人工ビーチによる海洋レジャーの展開</li> </ul>
歴史文化資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界遺産に登録されている斎場御嶽・中城城跡・勝連城跡</li> <li>・ 久高島や津堅島などの個性豊かな島しょ地域</li> </ul>

## 4 基本方向

### (1) 基本的な考え方

#### ・ 県土の均衡ある発展や持続可能な社会の構築

県土の均衡ある発展や持続可能な社会の構築に向けては、無秩序な開発が広がることで本来守るべき自然資源や歴史資源が失われることなく、自然環境の保全と開発のバランスを保ちつつ、地域の個性や特長を伸ばした力強い地域圏を形成することが重要である。

また、地域コミュニティの形成や人口減少等に対応した魅力ある地域づくりを推進するため、地域ニーズに応じた子育てしやすい環境づくりや高齢者社会の対応など、住みよいまちづくりを推進することが重要である。

#### ・ 災害等に強い県土づくり

地震、台風、集中豪雨など自然災害や感染症など様々な災害等に対する安全の確保は、県土づくりを進める上での前提とし、災害に上限はないという東日本大震災の教訓を踏まえ、災害等と正面から向き合い、ソフト・ハードを組み合わせ、粘り強くしなやかに対応することが重要である。

## (2) 目指す姿

基本的な考え方及び変化する社会・経済情勢を踏まえ、東海岸サンライズベルトの目指す姿として、以下の3つを設定する。

### ①東海岸地域の強みを活かした輝きを放つエリアの形成

東海岸地域が有する歴史文化資源や自然環境、経済発展のポテンシャルに着目し、西海岸地域とは異なる、魅力ある豊富な地域資源を活用・発展させることで、輝きを放つエリアを形成する。

### ②新たな発展地域の形成及び北部展開による経済の背骨の形成

I T・第二次産業の拠点形成や港湾機能の強化等による強固な経済基盤の形成や、最先端技術を実証・導入する新時代に対応した新たな発展地域を形成することに加え、北部地域への展開を図ることで、西海岸地域と対をなすもう一つの経済の背骨を形成する。

### ③西海岸との連携強化による県土の均衡ある発展

広域的な交通ネットワークの形成や中南部都市圏の都市軸を形成している西海岸地域との連携強化により、相乗効果を発揮し、県土の均衡ある発展を図る



### (3) 構想全体のコンセプト

西海岸地域と対をなす新たな経済の背骨の形成に向けては、中南部都市圏の西海岸地域と異なる東海岸地域の強みを発揮する必要がある。

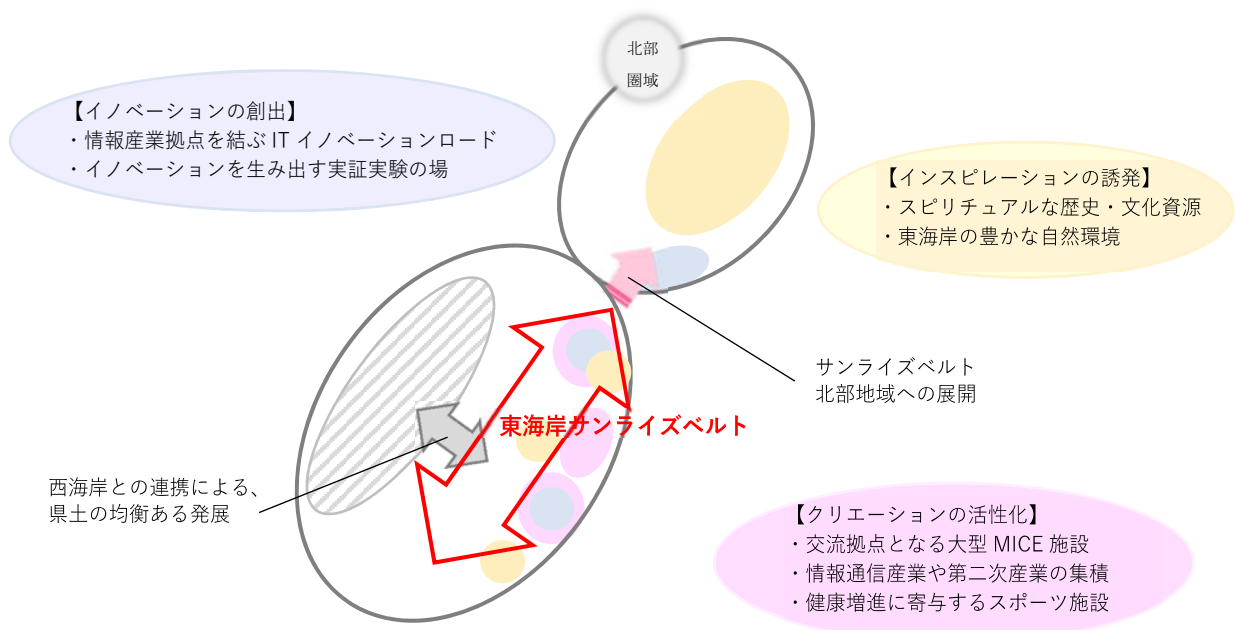
西海岸においては、各種レクリエーション施設、リゾートホテル等が立地し、都市近郊型のビーチリゾートが形成されており、『サンセット』を望む地域として、「癒し・リゾート」、「ショッピング・消費」、「娯楽・レクリエーション」がキーワードになると考えられる。

東海岸においては、『サンライズ』を望む地域であることから、「始動・目覚め」、「生産・創造」、「健康・活力」をキーワードとした、以下のコンセプトとする。

#### 東海岸サンライズベルトの全体コンセプト

「地域資源を活かしつつ、新たな交流拠点の形成や最先端技術の導入等により、産業が興り、生産・創造活動が活性化することで、持続可能な経済の背骨を形成する。」

- ・最先端技術の実証による社会課題の解決に向けた取組や新たな産業・起業を支援するイノベーションな地域
- ・世界遺産となっているスピリチュアルな歴史文化資源と沖縄特有のゆったりした自然環境により、ひらめきや新たな刺激を誘発するインスピレーションな地域
- ・情報通信関連産業や第二次産業の集積に加え、世界との架け橋となる交流拠点整備やスポーツ振興による健康増進により生産、創造活動が活性化するクリエイションな地域



## 5 構想実現のための展開

(1) 実現のための視点	(2) 施策展開の基本方向
<p><b>①東海岸のポテンシャルと最先端技術による拠点の形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ I T イノベーション拠点形成</li> <li>・ 新たな産業の拠点形成</li> <li>・ 大型 MICE 施設を核とした交流拠点</li> </ul>	<p><b>① I T イノベーション拠点の形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新技術の実証の先行地域としての活用</li> <li>・ 情報通信拠点を結ぶ I T イノベーションロードの構築</li> <li>・ イノベーション創出の源泉となる空間づくり</li> <li>・ ワークーションを展開する I T 拠点の形成</li> </ul>
<p><b>②ソフトパワーを活かした東海岸地域の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東海岸地域一帯への賑わいの連鎖</li> <li>・ スポーツツーリズムの展開</li> <li>・ スピリチュアル空間の活用</li> <li>・ 自然環境と生活空間の活用</li> <li>・ ワークーションの展開</li> </ul>	<p><b>②第二次産業の拠点形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中城湾港周辺における新たな産業の中心地の形成</li> <li>・ 持続的な社会の構築に寄与する活動の推進</li> <li>・ 企業誘致・県内企業の高度化の促進</li> </ul>
<p><b>③縦軸に連なる強固な経済基盤</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幹線道路網の整備</li> <li>・ 南北に延びる幹線道路整備</li> </ul>	<p><b>③港湾機能の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アジア・離島との物流ネットワークの形成・強化</li> <li>・ 産業支援港としての港湾機能の強化</li> <li>・ 魅力あるウォーターフロントの形成推進</li> </ul>
<p><b>④サンライズベルトの北部延伸</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業集積地へのビジネス展開</li> <li>・ 自然を活かした観光振興</li> </ul>	<p><b>④大型 MICE 施設等を核とした東海岸地域の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界との架け橋となる交流拠点の形成</li> <li>・ 東海岸に点在する資源を活用した交流機会の創出</li> <li>・ 多様な旅行者需要に対応した観光振興の展開</li> </ul>
<p><b>⑤スポーツツーリズムの施策の展開</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツ施設や宿泊施設等の連携強化</li> <li>・ アスリートにも対応可能な機能を有する施設整備</li> <li>・ クラブ活動の誘致や長期滞在型観光の展開</li> </ul>	<p><b>⑤歴史資源・自然資源と産業振興・観光振興が調和する土地利用の展開</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然環境や民泊等を活用したワークーションの展開</li> <li>・ 都市基盤の整備、経済基盤の強化</li> <li>・ 広域のかつ計画的な土地利用の展開</li> <li>・ 良好な居住環境の整備</li> </ul>
<p><b>⑥サンライズベルトの北部圏域への展開</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報通信等関連企業集積地へのビジネス展開</li> <li>・ やんばる国立公園を活用した高付加価値な観光展開</li> <li>・ 自然を活かしたワークーションの展開</li> </ul>	<p><b>⑥東海岸地域の円滑な交通ネットワーク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東海岸地域の基軸となる国道 329 号バイパスの整備</li> <li>・ 拠点間を結ぶ広域的な公共交通システムの構築</li> <li>・ 基幹道路整備による西海岸地域との連携強化</li> </ul>
<p><b>⑦サンライズベルトの北部圏域への展開</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報通信等関連企業集積地へのビジネス展開</li> <li>・ やんばる国立公園を活用した高付加価値な観光展開</li> <li>・ 自然を活かしたワークーションの展開</li> </ul>	<p><b>⑦東海岸地域の円滑な交通ネットワーク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東海岸地域の基軸となる国道 329 号バイパスの整備</li> <li>・ 拠点間を結ぶ広域的な公共交通システムの構築</li> <li>・ 基幹道路整備による西海岸地域との連携強化</li> </ul>

## (1) 構想実現のための重要な視点

### ①東海岸のポテンシャルと最先端技術による拠点の形成

ITイノベーション拠点及び新たな産業拠点の形成に向けては、IT産業の拠点を結ぶ、自動運転等の最先端技術を活用した実証の場、「ITイノベーションロード」の構築のみならず、先進企業の研究機関や世界中のスタートアップ企業、起業家の誘致や新たな技術のトライアルができ、イノベーションを生み出し続ける実証・実験の場となることが重要である。

マリンタウンエリアへ建設予定の大型MICE施設においては、東海岸地域の賑わいの核となり、人・もの・情報が行き交う世界との架け橋となる交流拠点として整備することが重要である。

### ②ソフトパワーを活かした東海岸地域の活性化

沖縄は、歴史、文化、風土により、人を引きつける魅力、すなわち「ソフトパワー」を有しており、「健康・長寿」、「安全・安心」、「快適・環境」など先進国が更に発展するための高次元のニーズに対応できる大きな可能性を有している。

東海岸地域の活性化に向けては、こうしたソフトパワーを活かし、東海岸地域に点在するスポーツ・コンベンション施設やスピリチュアルな歴史文化資源、自然環境やゆったりとした生活空間等の地域の魅力による展開とともに、大型MICE施設等を核とした賑わいを東海岸地域一帯に連鎖させることが重要である。

また、新型コロナウイルス感染症による働き方の見直しやAIやIoT等の情報技術が発展する中で、ワーケーションの展開が注目されている。東海岸地域に集積する情報通信関連企業との連携に加え、自然、文化等のソフトパワーと絡めることで、多様なニーズにあわせて働き方が選択できるワーケーションの聖地としての展開を図る。

### ③縦軸に連なる強固な経済基盤の構築

東海岸に経済の背骨を形成するためには、広域的なインフラ整備が重要である。南部東道路等の幹線道路の整備を推進し、本島南北軸・東西軸を有機的に結ぶ幹線道路網（ハシゴ道路）の整備促進を図る。

また、自然の魅力を十分に活かすことのできる道路整備（海への眺望等）や東海岸地域を一体的に繋ぐ南北に伸びる道路（国道329号バイパス等）の整備を推進し、物流機能の強化や県民の生活、観光客の利便性向上を図る。

#### ④サンライズベルトの北部延伸

北部圏域に点在する産業拠点や自然環境を含めた南北に伸びるサンライズベルトを形成することで、広域的な産業振興や観光振興の展開が期待できることから、サンライズベルトを北部圏域にも展開し、県土の均衡ある発展を図る必要がある。

## (2) 施策展開の基本方向

### ①IT イノベーション拠点の形成

沖縄IT 津梁パークは、アジアと日本を結ぶIT産業の拠点として情報通信関連企業の集積が進んでいるとともに、首都圏-沖縄-アジアを直接結ぶ沖縄国際情報通信ネットワーク（海底光ケーブル）で結ばれている。

今後、Society5.0 の具現化に向け、AI やIoT、5G、ロボット、ビッグデータの活用など、新技術の社会実験の場の提供が重要となっている。Society5.0 の展開は新型コロナウイルス感染症による「新たな日常」の原動力になるとともに、豊かで暮らしやすい魅力的なまちの実現や災害時のリスクに強い強靱なまちづくりに繋がることを期待されている。

このため、東海岸地域において、一層の企業集積や新技術の社会実装の促進に向けて、IT 産業の集積やこれまで整備された基盤等を生かし、新技術の実証の先行地域としての展開を図る。

また、東海岸地域一帯に連なる、イノベーション拠点の形成、高度化を図るため、IT 津梁パークのみならず、環金武湾に広がるIT産業の拠点などを結ぶ、自動運転等の先端技術を活用した実証の場「IT イノベーションロード」の形成を図る。

更に、高速な通信環境の整備のみならず、自然、文化、地域社会など、地域特色のソフトパワーを生かし、グローバルに展開するIT 企業や人材の誘致を図る

本年、世界的に流行した新型コロナウイルス感染症への対応として「ワーケーション」が広まり、新たな働き方やワーク・ライフ・バランスの実現に寄与することが期待されている。

これを踏まえ、東海岸地域において、IT 津梁パークを中心とした基盤や、世界遺産などリゾート空間を活かし、新技術の社会実験やソフトウェアの開発に取り組みながら、快適に滞在できるような、ワーケーションの拠点形成を図る。

ITイノベーション拠点の形成に向けては、民間の投資やイノベーションが誘発され、生産性向上と所得の増加につながる環境づくりが重要である。国土交通省の「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」中間とりまとめにおいて、多様な人々の出会い・交流を通じたイノベーションの創出や人間中心の豊かな生活を実現し、まちの魅力・磁力・国際競争力の向上が内外の多様な人材、関係人口を更に惹きつける好循環が確立された都市の構築を図るべきとの報告がされている。

これらを踏まえ、イノベーション創出の源泉となる偶然の出会いを生む空間づくり（カフェ、ストリート、広場、緑地等）や、ワーケーションにおける魅力ある滞在環境の創出など、クリエイティブな地域の形成に取り組む。

## ②第二次産業の拠点形成

東海岸地域においては、これまで健康・医療・バイオ、IT等の研究開発、生産分野において、産業振興を図る場としての施設の集積が進んでいる。特に、中城湾港周辺では、ポテンシャルの高い立地を活かし、県内随一のイノベーション拠点、新たな技術の実証実験の先行地区として、新たな産業の中心となることが期待される。

また、南部東道路の整備により、那覇空港等とのアクセス性が飛躍的に向上することから物流拠点の集積等も期待される。

一方で、県内産業の更なる振興を図るうえで、県内製造業等の規模拡大・高度化や企業誘致に係る産業用地の確保が課題となっている。

研究開発分野においては、OISTや琉球大学といった学術研究機関との連携強化を図り、地域特性を踏まえた研究を更に推し進め、その成果を東アジア・南西アジア地域等への技術供与や共同の事業展開等を図ることでアジア地域の成長に寄与することが期待できる。健康医療・バイオ等分野に加え、環境技術、スマートプラスチック（脱プラスチック）、再生可能・環境配慮型エネルギーの研究開発や活用推進などを推進することで、SDGsの理念である持続的な社会の構築に寄与することが期待される。

新型コロナウイルス感染症に影響により、首都圏において地方移住への関心が高まっていることから、多様な人材の活躍の場を広げることで地方移住の促進に繋がることを期待される。

これらを踏まえ、アジアへ展開する高付加価値な先端企業の集積や環境配慮に対応した研究開発等を推進するとともに、企業誘致や県内企業の高度化を促進する新たな産業用地の確保の検討など、第二次産業の拠点形成を図る。

### ③港湾機能の強化

東海岸地域では、中城湾港の物流拠点としての機能の集積とともに、クルーズ船が寄港するなど、人流・物流の双方の拠点としての機能が求められている。また、中城湾港新興地区に集積する研究、開発、生産、処理といった産業のライフサイクルの機能とともに、物流機能の連携により産業振興の効率化に大きく寄与している。

このため、さらなる産業振興に向け、アジアとの物流ネットワーク並びに、沖縄県内離島とのネットワーク形成に向けた港湾機能の強化を図る。

また、那覇港と役割分担をしながら、中城港湾の新港地区の産業支援港としての港湾機能の強化を図る。

近年、日本へのスーパーヨット等の寄港が増加している。付加価値の高い需要を取り込み地域振興や魅力あるウォーターフロントの形成を推進するため、中城湾の与那原地区や東部開発地区におけるマリナー等の拡充・整備を推進する。

### ④大型 MICE 施設等を核とした東海岸地域の活性化

本県のアジアに近い立地特性や観光リゾート地としての認知度の向上等から、国内外を対象とした大規模な会議やイベント等の需要が高まりつつある。

そのような中、県では、西海岸地域への都市機能の集中に伴う交通渋滞等の都市課題を緩和し、東海岸地域の振興を図り、ひいては県土の均衡ある発展につなげていくため、与那原町と西原町に跨がる中城湾港マリンタウンエリアへ、民間資金等を活用したエリア周辺の開発を含む大型 MICE 施設整備に向けた取組を推進している。

東海岸地域の活性化に向けては、大型 MICE 施設等を核とした賑わいを東海岸一帯に連鎖させることが重要であり、大型 MICE 施設に加え、東部海浜「潮の森」、勝連城跡や中城城址公園など観光エリア拠点の形成を図るとともに、世界遺産やスポーツ拠点など地域の魅力を生かすことが重要である。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでリアルの場で行われていたコミュニケーションをオンラインが一定程度代替してきていることから、「リアルな場」でしか体験できない文化・芸術・エンターテインメント機能等の充実は、都市の魅力や国際競争力の向上に寄与することが期待される。

これらを踏まえ、マリンタウンエリアを中心に、人・もの・情報が行き交い、世界との懸け橋となる交流拠点の形成を図る。

マリントウンエリアや東部海浜開発地区では、ウォーターフロントの展開として、今後、スーパーヨットの受け入れも検討されている。こうした環境は、富裕層をはじめとする個人旅行者の需要があり、西海岸とは異なるサービスや施設の展開によって、海外個人旅行者を中心とした観光客層の獲得が期待されることから、長期滞在に繋がる周遊・体験型観光メニューの開発や拠点整備など観光資源の連携強化を図る。

アフターMICE に寄与する、多様で魅力的な交流機会の創出のため、東海岸地域に点在する観光資源や、スポーツ施設、自然環境などを活用した交流機会の創出を図る。

世界遺産である勝連城跡や中城城跡では、ユニークベニュー（史跡や公共空間等でイベントを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場）としての活用が既に始まっており、好評を博していることも踏まえ、アフターMICEの受け皿としての展開を推進する。

## ⑤スポーツツーリズムの施策の展開

東海岸地域は、沖縄県総合運動公園や吉の浦公園などの総合スポーツ施設が立地し、更に、沖縄アリーナの建設が進められ、東部海浜開発計画においては、スポーツ・コンベンションの拠点形成が位置づけられている。これらの取組を推進する一方で、宿泊施設の不足や交通利便性の課題から、長期滞在型で集客型のスポーツツーリズムの展開が十分に進んでいない。

このため、沖縄県総合運動公園や吉の浦公園などの総合スポーツ施設や点在するビーチ周辺の宿泊施設などと連携を図りながら、トップアスリートにも対応可能な機能を有する施設整備や、学生や社会人におけるクラブ活動の誘致など、長期滞在型の多様なスポーツツーリズムの実現に向けた施策展開を図る。

また、ニューノーマルにおいてもインバウンドは大きな可能性がある。

このため、各国との人的交流回復までの時間を活用した受け入れ態勢の向上や体験型アクティビティ等の観光プログラムの更なる充実を図る。



## ⑥歴史資源・自然資源と産業振興・観光振興が調和する土地利用の展開

東海岸地域には、斎場御嶽や久高島のほか、城跡等の世界遺産となっている中城城跡や勝連城跡等の歴史文化資源があり、スピリチュアルな空間を形成している。

オーバーツーリズムの抑制により静かで神聖な佇まいを保全しつつ、これら歴史文化資源とその他の拠点間の連携強化により、回遊性を高める観光施策の展開やワーケーションとの融合によりインスピレーションを誘発する地域資源としての活用を図る。

中城湾を内包する海岸の西方には、沖縄本島のみどりの骨格をなす斜面緑地が南北方向へ連坦しており、その裾野には農用地が広がっている。また、観光振興の観点では、西海岸地域に比べて宿泊施設が少なく、リゾートホテルの立地が限定的である一方、中城湾に点在する島嶼地域をはじめ、ゆったりとした自然環境や生活空間の特性を活かした滞在型観光の拠点としてのポテンシャルを有している。

さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、三密の回避や地方移住、場所を問わない働き方に注目が集まっている。

東海岸地域のポテンシャルを最大限に活かし、移住者の増加や西海岸地域を中心とした従来と異なる新たな観光客層を獲得するため、良質なオープンスペースやゆとりある歩行者空間を確保したウォークブルなまちづくりを推進するとともに、東海岸地域に点在する自然環境や民泊等とビジネス環境を融合したワーケーションの展開に取り組む。

既存の工業地周辺や幹線道路沿道においては、物流倉庫や商業施設をはじめとした施設用地の需要が高まっている。

このため、これらのニーズに対応した農村集落環境や自然環境と調和のとれた土地利用を図りつつ、都市基盤の整備や経済基盤の強化を促進することで、地域の振興を促し、経済の骨格の形成に寄与することを目指す。

産業振興に向けた取組を推進していく一方で、居住地においても西海岸地域とは異なる展開が期待される。西海岸地域では、都市機能及び人口が集中し、集合住宅が多く立地しているのに対し、東海岸地域では都会の喧騒から離れ、豊かな自然環境と近接するゆとりある良好な居住地の形成を図る。さらには、スポーツ施設や沖縄こどもの国、北部地域に点在する自然学習施設等が立地する強みを活かし、子育て世代に選ばれる地域を目指すとともに、イノベーション拠点として医療・福祉等の機能確保及びリモートサービスを活用した遠隔診療等を推進することで、超高齢化にも対応した良好な住環境の形成を図る。

東海岸地域は、市街化調整区域の占める割合が大きいが、市街化区域に産業用地の確保が困難になっていること等から、保全と開発の両立を図りながら、産業振興・観光振興に資する土地利用を広域的かつ計画的に展開していく。

### ⑦東海岸地域の円滑な交通ネットワークの形成

東海岸地域の活性化・発展において、交通アクセスは重要な課題であり、観光、教育、地域活性化、住み良いまちづくりなど様々な分野の相乗効果を高めるための地域交通の広域的な連携・拡充や、アフターMICE を促進する大型MICE 施設と地域拠点を結ぶ円滑な交通システムの構築が重要である。

中南部の経済の骨格である西海岸との連携強化を図り、相乗効果を発揮するため、基幹道路の整備が重要である。

東部海浜開発等を踏まえた道路の整備・拡充を目指し、現在進められているはしご道路や南部東道路等の計画的な整備に加え、東海岸に南北に伸びる基軸となる道路(国道329号バイパス等)の整備の推進や計画延長に向けた取組を推進する。

また、物流の強化に向け、中城湾港(新港地区)等の東海岸地域の産業拠点や、中湾港の産業支援港の強みを生かすため、那覇港と中城湾港新港地区を結ぶ物流道路の整備を推進する。

東海岸の基軸となっている国道329号は、幹線道路としての機能向上と交通渋滞の緩和に向けてバイパス整備が進められている。これに加え、海岸部の強みである「海が見える景観」を活かしながら、国道329号バイパスを東海岸の物流道路としての役割をも担う、東海岸地域一帯に連なる新たな基軸としての整備に向けた取組を推進する。

地域交通においては、市町村において地域コミュニティバスの運行が実施している。

これらの地域交通の持続的な運用や利便性の向上に加え、東海岸地域の市町村における連携・強化による広域的な展開を推進する。

大型MICE 施設を生かし、東海岸地域一帯にビジネス・リゾートを展開するため、大型MICE 施設と地域拠点を結ぶモノレールやLRT 等を含む円滑な公共交通システムの構築や、交通情報をリアルタイムで取得できる公共交通のスマート化等についても検討する。

新型コロナウイルス感染症の影響により、「三つの密」を回避する観点から自転車利用が注目されており、うるま市が検討を進める「自転車ネットワーク計画」の広域的な展開等により自転車の走行空間の安全性の確保やシェアサイクルの整備等、都市交通システムとして自転車を利用しやすい環境の一層の整備を推進する。

近年、5G といった新たな通信技術の発展や自動運転の技術の実証実験の展開、MaaS (Mobility as a Service) にみられるように人の移動にも変革が起き始めている。

東海岸地域において、利用者が移動手段を効率よく選択し、目的地まで快適に移動できるモビリティシステムを構築するため、こうした新技術を実装する社会基盤の形成を推進する。

## ⑧サンライズベルトの北部圏域への展開

北部圏域の東海岸地域では、豊かな自然環境を活かした産業基盤整備が進められている。金武町のギンバル訓練場跡地においては、地域医療施設及びリハビリ関係施設が集積しており、宜野座村ではIT 関連企業の誘致、経済金融活性化特別地区に指定されている名護市においては、東海岸の久辺地区を中心に情報通信・金融関連企業が集積していることから、今後、様々なビジネスの展開が期待できる地域となっている。

さらに北側の東村、国頭村においては、多種多様な固有動植物及び希少動植物が生息・生育し、亜熱帯の大自然を有するやんばる国立公園に指定されている。

これらの北部圏域に点在する産業拠点や自然環境を含めた南北に伸びるサンライズベルトを形成することで、広域的な産業振興や観光振興の展開が期待できることから、サンライズベルトを北部圏域にも展開し、県土の均衡ある発展を図ることが重要である。

このため、自然世界遺産登録を見据えた自然の保全に最大限に配慮した持続可能な付加価値の高い観光の推進や、海中道路から北部地域まで快適に移動できる自転車専用道路の整備とともに、優れた自然・魅力ある環境を活かしたワーケーションの促進やサテライトオフィスの設置などテレワーキング環境の整備・活用を推進する。

6 資料

(1) 東海岸サンライズベルト構想の構造

